

授業科目名・形態	児童・家庭福祉論	講義	必修・選択の別	選択	
担当者氏名	中里 操	開講期	2年前期	単位数	2

【授業の主題と目標】

近年、わが国では子どもが事件に巻き込まれるケースやいじめによる自殺や不登校の増加、また、児童相談所に寄せられた虐待に関する相談件数が増加し続けるなど子どもに関する問題が多々あります。要因としては、子どもにかかわる人が昔と比べて減少したと考えられます。授業では、子どもと家庭・地域社会の現状と課題と現在の制度を学び、子どもと家庭支援の基本的な考え方を学びます。

【到達目標】

- 1) 子ども家庭福祉論を学ぶ意義や目的を理解し、児童の生活問題への関心を深める。
- 2) 子どもの貧困や虐待などの問題が生まれる要因と、その対応・対策について説明できる。
- 3) 子ども家庭福祉にかかわる各種サービス・法制度について理解し、説明できる。
- 4) 子ども家庭福祉・保健、援助活動を理解し、説明できる。

【授業計画・内容】

- 第1回 オリエンテーション／現代社会と子ども家庭
- 第2回 少子高齢社会と次世代育成支援子／現代社会と子ども家庭福祉の問題
- 第3回 子どもの育ち、子育てニーズ／子どものための福祉原理
- 第4回 子ども家庭福祉の理念／子どもと家庭の権利保障
- 第5回 児童福祉の発展
- 第6回 子ども家庭福祉に係わる法制度① (1. 法制度)
- 第7回 子ども家庭福祉に係わる法制度② (2. 実施体制 3. 子ども家庭福祉の財政 4. 子ども家庭福祉の専門職)
- 第8回 子ども家庭福祉に係わる法制度③ (5. 苦情解決と権利擁護)
- 第9回 子ども家庭福祉に関わる福祉・保健① (1. 母子保健 2. 障害難病のある子ども家庭への支援)
- 第10回 子ども家庭福祉に関わる福祉・保健② (3. 児童健全育成 4. 保育)
- 第11回 子ども家庭福祉に関わる福祉・保健③ (5. 子育て支援 6. ひとり親家庭の福祉)
- 第12回 子ども家庭福祉に関わる福祉・保健④ (7. 児童の社会的養護サービス)
- 第13回 非行児童・情緒障害児への支援
- 第14回 児童虐待対策・子どもと家庭に関わる女性福祉
- 第15回 子ども家庭への援助活動

【教科書等】 社会福祉士養成校協会編集委員会編 新・社会福祉士養成校講座第15巻第5版「家庭や児童に対する支援と児童・家庭福祉制度」

【授業準備】 講義内容を踏まえ復習を中心に行い、講義中に指摘する子どもと家庭に関わる諸問題や制度について、新聞や参考書を用いて確認すること。

【主な関連する科目】 「社会保障」「権利擁護と成年後見制度」「障害児(者)の福祉」「障害福祉論ⅠⅡ」

【参考文献】 一瀬早百合：「障害がある乳幼児と母親たち」－その変容プロセス－、
E. H. エリクソン：「幼児期と社会1・2」みすず書房、
浅倉次男：「子どもを理解する」へるす出版

【成績評価方法】 出席状況・レポート等30%、期試験成績70%の総合評価とする。

【学生へのメッセージ】

子どもが健やかに生まれ育つ環境として何よりも重要な基盤である家庭は、少子高齢社会の人間関係が希薄な社会において、新しい家庭観が必要となっています。この授業は、子ども自身への支援と、子育て家庭へのさまざまな支援を取り上げます。子育てとそれを支える家族の問題についてのメディア情報に関心を寄せてください。